

## 令和元年度電源立地地域対策交付金の活用 (農業試験分析機器等の整備)

電源立地地域対策交付金は、発電用施設の周辺地域における公共用施設の整備や企業の産業関連技術の振興のための事業に対して交付金を交付することで、発電用施設の整備に係る地元の理解促進等を図ることを目的としています。

令和元年度はこの交付金を活用して、農林水産研究所、果樹研究センター、みかん研究所において次の5つの機器を導入しました。

### ガスクロマトグラフ質量分析計 (農林水産研究所)

農産物の安全性を確認するためには、出荷前の県産農産物の残留農薬分析を行う必要があります。

今回導入した機器は、県産農産物の安全性を確保するため、出荷前の県産農産物の残留農薬分析調査及び輸出農産物の分析に使用します。



## 分光測色計（果樹研究センター）

果物の果皮や果肉色は、熟度や見た目のおいしさを判定する上で重要な要素となります。

果樹研究センターでは、かんきつの高品質安定生産に資する研究を行っており、今回導入した機器は、果皮や果肉色の計測に使用し、詳細で正確な色彩評価が可能となります。



## 葉緑素計（果樹研究センター）

かんきつの肥料試験では、かんきつ樹体の栄養状態を把握する必要があります。

今回導入した機器は、葉を傷めることなく葉の葉緑素量を計測できるため、かんきつの栄養状態を正確に把握することが可能となります。



### 微量高速遠心機（果樹研究センター）

かんきつのウイルス検定を行う際は、ウイルス遺伝子の濃縮・分離を行う必要があります。

今回導入した機器は、5℃以下の低温でサンプルを高速回転させ、ウイルス遺伝子の濃縮・分離に使用します。



### 細胞内・観察イメージング装置（みかん研究所）

かんきつの新品種育成には、交配に用いる花粉の受精能力や種子親との親和性（種子の出来やすさ）を、事前に細胞レベルで観察・調査し、適切な交配数や交配時期を設定する必要があります。

今回導入した機器は、花粉の受精能力や種子親との親和性調査に使用します。

